

がん研究の現状と今後のあり方について

背景

- がんは、昭和50年代半ばより、我が国の**死亡原因の第1位**。
- 現在はおよそ**3人に1人(年間約34万人)**ががんにより死亡。

文部科学省におけるこれまでの取組

- 「**対がん10カ年総合戦略等**」や「**がん対策基本法**」に基づく取組を実施
- がんの**本態解明**や**予防、診断及び治療**に関する**研究開発**
- 大学等におけるがんに関する**教育並びに医師等の養成**

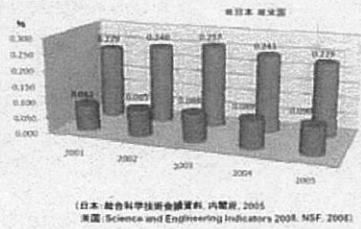
がん研究戦略作業部会(2009年7月)

- (目的)
- 上記の背景を踏まえ、文部科学省として、基礎研究やその成果を積極的に医療へ応用する**橋渡し研究**において、**総合的・戦略的にがん研究を推進するための今後の取組**を検討する
 - 「**新成長戦略**」に謳われた**ライフイノベーション**に積極的に取り組む
- (進め方)
- がん関係者からヒアリング**(厚生労働省、日本医療機器産業連合会、(社)日本製薬工業協会、がんの基礎研究者、臨床医(外科療法、放射線療法、化学療法)、がん患者支援団体、若手研究者)
 - がん研究の**国際動向**、最近の**ゲノム研究**と**国際がんゲノムコンソーシアム**の取組状況を聴取。
 - 2010年3月に中間取りまとめ**(早急に取り組むべき施策及び中長期的な課題を整理)

現状認識

がん研究をめぐる状況と評価

- 我が国の基礎研究の質は高く、**がん特定領域研究**は、若手や他分野の研究者への**求心力があった**。
- 日本発の医薬品が上市されず、**欧米企業の医薬品が世界市場を席卷**。
- 平成22年度のライフサイエンス研究に関する**予算の減少**。
- 平成21年度末で「**がん特定領域研究**」終了。
- 日米の基礎研究に対する**公的投資の格差大**。
- 中国、シンガポールでは**年々研究投資が増加**。



問題点

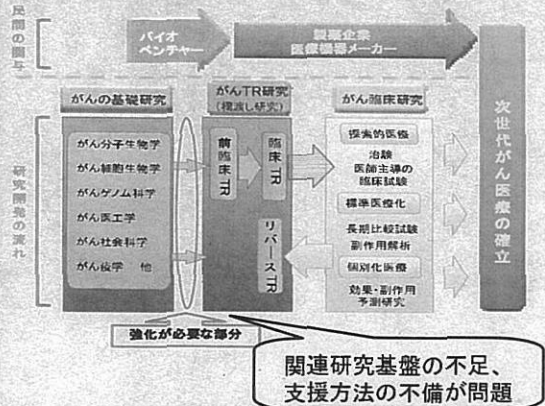
- がん研究開発の失速**。
- がん研究の**推進体制の喪失**。
- がん研究の**求心力の低下**。
- 国際競争力の低下**。
- がん克服へ向けた**展望の途絶**。

今後の方策として、
「**早急に取り組むべき施策**」と
「**中長期的な課題**」を整理

今後の方策

早急に取り組むべき施策
(平成22年度から4年程度を目途)

早急に強化が必要な部分



今後、TRに繋げる部分の強化が必要

今後必要となる仕組み

革新的シーズをシームレスにTRに繋げる仕組みを構築し、がん対策に資する革新的な予防・診断・治療法の開発を目指す。

- 様々なステークホルダーが参加し、政策提言などを行う強力な「研究推進組織」の構築
- 効率的かつ速やかにシーズを育成するための「がん研究者ネットワークの構築」
- 開かれた「研究プラットフォーム」の整備

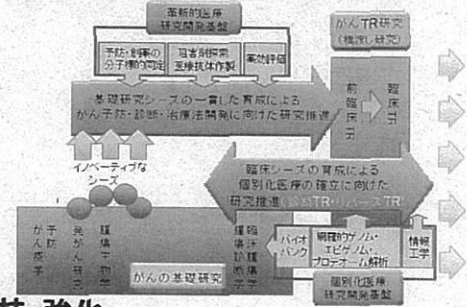
革新的医療研究開発基盤

基礎段階に近い革新的なシーズがPOCを取得するための支援を行う。

個別化医療研究開発基盤

臨床段階に近いシーズの育成のため、基礎から臨床、臨床から基礎への研究開発の流れを促進する。

- 橋渡し機能や基礎研究の水準の継続的な維持・強化



期待される効果

- 基礎研究成果の実用化の加速
- 新成長戦略におけるライフイノベーションの創出への貢献

中長期的に取り組むべき方策(平成32年(2020年)を見通して)

○政府全体で取り組むがん研究推進体制の充実に向けて

- ・我が国のがん研究の抜本的強化の具体策とロードマップをまとめたがん研究の国家戦略の策定
- ・がん研究に関する国家レベルの司令塔と恒久的な府省連携の組織・体制の導入の検討

○がん研究の国家戦略に盛り込むべき事項

- ・臨床現場での実用化を目指した中長期的なビジョンに基づくロードマップ
- ・大規模なケースコホート研究等の効果的ながん予防に資する研究戦略
- ・研究成果の実用化を見据えたシームレスな研究支援の方策
- ・若手ががん研究者育成のための投資拡大と環境整備
- ・ベンチャー支援を含む新たな民間活力の導入方策
- ・海外の研究機関との連携による国際共同研究の推進
- ・国民の理解増進とがん患者の参画によるがんに対する共闘態勢の構築

次期基本計画・総合戦略の策定に活用

【次期基本計画及び総合戦略策定に向けたロードマップ】

